

大手 確認なるか？ 搦手

はっぐがわら版

小牧山では、ツクツクボウシの大合唱が夏の終わりを知らせ始めましたが、まだまだ暑い日が続いています。小牧山山頂の南側階段と東側スロープでは階段の撤去工事等、調査に向けての準備が着々と進んでいます。



調査前の南側階段(大手口推定箇所)

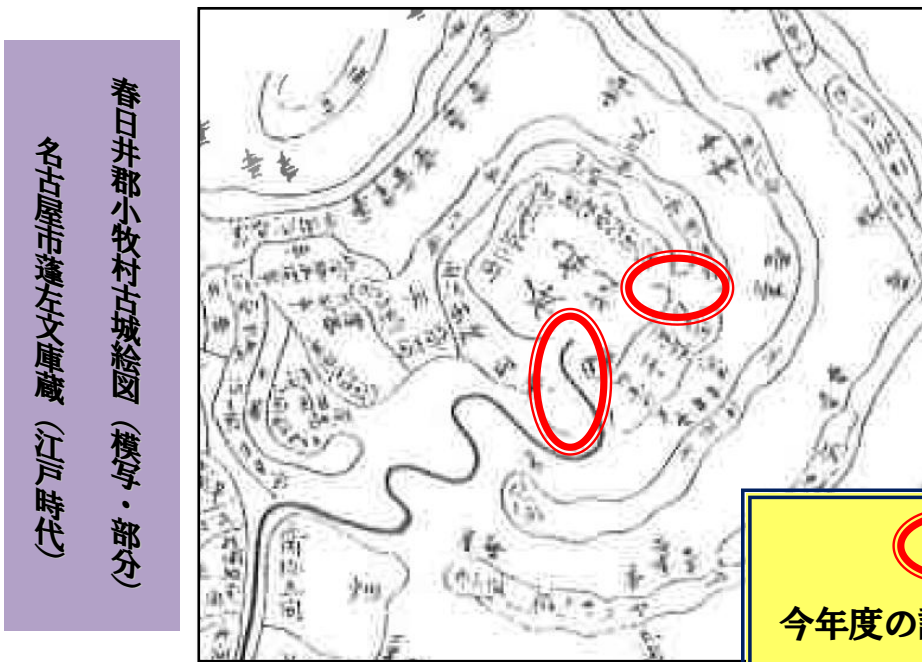
この部分は江戸時代の絵図にも主郭(本丸)に入るための出入口(虎口)として描かれており、(下図左参照)それぞれ「大手口」と「搦手口」に相当する可能性があります。城の調査で、この出入口(虎口)の位置や形を確認することは、築城時の小牧山城設計の意図などを推定する材料としてとても重要です。その意味で今年度は、小牧山城にとってまさに「肝」となる調査で、調査担当者はじめ作業員一同、心して作業を進めたいと思います。

平成27年度 第2号

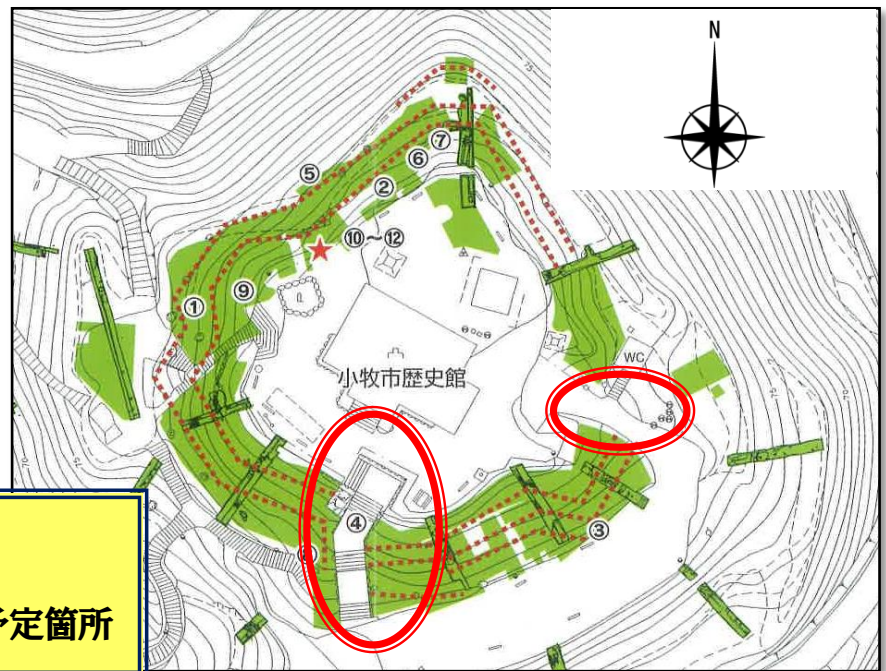
発行日: 20150827

発行: 小牧市教育委員会
小牧山課

問合せ: 0568-76-1623



春日井郡小牧村古城絵図(模写・部分)
名古屋市蓬左文庫蔵(江戸時代)



今年度の調査予定箇所

発掘ひとくちメモ ～「大手」と「搦手」～

城外から本丸へ至る道筋は、小城でも2本、大規模な城では数本を設け(中略)要所要所に虎口を置いて仕切っておく。最も大切な表口を大手(城によっては追手)といい、次に重要な裏口を搦手という。(中略)大手の道筋に連なる虎口は、特に厳重に造って防備を固めるが、視覚的に立派であることが重要である。(中略)それに対して搦手はただ厳重であればよく、(中略)城門も小型にする。少人数で守備できることが大切である。

『城のつくり方図典』(小学館) 三浦正幸著 より引用

調査中ご迷惑をおかけしますがご理解とご協力をお願いします

小牧市教育委員会